

実践的博士人材養成プログラム

(実施期間：平成 20～24 年度)

実施機関：早稲田大学（総括責任者：鎌田 薫）

プロジェクトの概要

学内に中核となる「博士キャリアセンター」を創設し、学内の関連組織と有機的に連携し戦略的・組織的な人材養成の枠組みを構成する。当該センターでは、若手研究者が国内外の機関で、研究開発・技術開発の実践や異分野・融合領域への挑戦など多様な場で創造的な成果を生み出す能力を身につけるため、学内外から公募した若手研究者を対象として、実社会で活躍するために必要なコミュニケーション、MOR・技術開発動向、実用英語などの能力開発を行う。ついで、意欲と能力のある若手研究者を競争的に選抜し、国内外の企業・研究機関等に長期派遣する。実践プログラムでは、水平連携のみでなく異分野・融合型の垂直連携を試みることにより、幅広い知見を有する人材養成を図る。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	イノベーション人材養成システム改革状況	実践プログラムの開発・運用状況	実施体制	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価： A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

イノベーションを起こすために必要なリーダーシップを備え、多様で創造的な能力を有する実践的な博士人材を育てるという明確な目標を立て、それに沿った施策をまとめ、博士人材の教育システム、キャリア支援システムを構築した。被養成者個人に対するマネジメントも良好で、事業成果に対する明確な評価もなされ、バランスの取れた事業展開が行われたことは評価できる。また、養成者数も所期の目標をほぼ達成しており、今後は事業終了後の中長期的な継続性を明確にすることを期待する。

- ・**目標達成度**：当初は養成者数の実績は少なかったものの、中間評価時以降、本事業の全学展開により急激に増加し、所期の目標人数をほぼ達成した。また、海外へのインターンシップにも力を入れ、質、量ともに良好な実績を上げたことは評価できる。
- ・**イノベーション人材養成システム改革状況**：総長のリーダーシップの下、大学院教育改革を始めとする様々なシステム改革を行っている。また、社会からのニーズを汲んだ「実践的博士」といったコンセプトを基に、企業との協同による博士人材養成プログラムの開発を行い、カリキュラムの正規科目化を行うとともに、自然科学系だけでなく、文理融合領域への全学展開を行った。グローバル的な視点を持って取り組んでいることも評価できる。
- ・**実践プログラムの開発・運用状況**：外部に対しても開放しているプログラムとなっているため、

他大学からの応募も進んでいる。グローバルプログラムに対する取組内容も優れており評価できる。定量的な評価もなされているが、今後は一步踏み込んで、このプログラムによって養成修了者、その他の学生の能力がどれくらい成長したかを定量的に把握することを期待する。

- **実施体制**：総長の支援の下、実施責任者、コーディネーター、メンターによるシステムティックなサポート体制が敷かれ、熱意を持って取り組んでおり、学内他部局、他大学への広がりも見られた。特に、海外での長期取組先を自力で開拓している点は評価できる。今後は、教員の意識調査など、もう少し定量的なチェックを進め、本事業終了後も全学の理解を得て事業を縮小せずに継続させることを期待する。
- **今後の進め方**：協力企業の支援も含めた資金確保、カリキュラムの正式履修科目としての設置など、事業継続のための努力を行うとともに、長期取組やカウンセリングを継続していることは評価できる。今後は、理工学術院だけに閉じることなく、中長期的な計画を立て、全学的に展開していくことを期待する。